

中部 NGO おうえん募金×ハートリレーキャンペーン

シーテック クリック募金 2018 報告書

クリック募金開設期間:2018年6月1日~2019年1月31日

クリック募金は期間内に2万クリックを達成しました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。ご寄付は以下の5団体に配分し各活動に使わせて頂きました。2018年度に実施した活動をここにご報告致します。

(特活) 地域国際活動研究センター(CDIC・シーディック)

東ティモール民主共和国リキサ県バザルテテ郡マウメタ村にて、現地 NGO (organizasaun Mankledo オルガニザサウン マンクレイド) をカウンターパートとしています。マウメタ村民と連携して村の共有地にある水源地にて植林活動をしています。水源林の復活が目に見えてきました。現地 NGO としては UNDP の支援を受けています。同じ村内の ACME 地区で花壇などをつくって周りの村人の環境意識を育てる活動に取り組みました。これにより、村人の環境保全への意識も垣間見られるようになりました。

今年度は新しくネパール国のスタディツ

アーを行い、2015年の大震災で倒壊した小学校を訪問し、子どもたちと交流しました。こちらでも環境意識を育てる活動ができな



支援地での花壇の作成

ニカラグアの会

今年度も、国内での事業を主に行ってきました。実は、今年度はニカラグアに赴き、手作りソーラーパネルを利用した携帯充電等にも使える新たなキット作りを行う予定でしたが、4月中旬から思わぬ国内での混乱が生じ、訪ねることさえ不可能になってしまいました。「飛びたて！留学」の制度を活用してニカラグアに行っていた学生も JICA 青年海外協力隊員も全員帰国したままです。しかしながら、ある程度の安定は取

り戻したようで、来年はぜひニカラグアに行きたいと思っています。

そういった事情も鑑み、12月には、ニカラグア&中米に関心のある人に集まっていただき、いろいろな話ができる場を設けました。その席で、ニカラグアの人々を撮った写真のパネル展示も行い、人々の生活をより知ってもらう機会になりました。



南遊の会

2018年8月16日～25日の10日間、ホーチミン市郊外のカンザー地区でマングローブ再造林事業に参加するスタディツアーを実施しました。日本から学生30名、社会人8名（含むスタッフ）、ベトナムから学生22名、教員1名が参加し、寝食を共にして、再造林地でのニッパヤシの下刈り作業と放棄塩田での試験植林を行いました。

「日越青少年交流の森」と名付けられた再造林地では植林苗は順調に成長を続け、2002年植林地の最大樹高は8m程に達していました。しかし、相変わらずニッパの成長は旺盛で、もうしばらくは下刈り作業が必要な場所もあるようです。



日越青少年交流の森での調査風景

2010年から開始した放棄塩田での試験植林では、当初は高地盤高を好むヒルギモドキとコヒルギを植えていました。しかし、これらは成長が思わしくないため、一昨年からはパイオニア樹種であるマヤプシキ、ヒルギダマシ、ウラジロヒルギダマシの植栽を始め、今年もこれら3種の植林作業を行いました。このうちヒルギダマシの残存率が最も高いことが確認されました。今後も成長モニタリング調査を継続することで、放棄塩田での最適植林樹種を選定していく予定です。



放棄塩田での植林作業

(認定特活) アイキャン

フィリピン全土で約 25 万人に及ぶ路上生活をする子どもたち。空腹や病気等に苦しみ、事故や犯罪に巻き込まれる危険に常にさらされています。そして、そのほとんどは毎日学校に行くのではなく、危険あふれる路上に行き、働くことでわずかな小銭を稼ぎながら命をつないでいます。

路上の子どもたちは、環境について考えたり、環境保全について学んだりする機会がほとんどありません。そこで、アイキャンでは、このような子どもたちに対し下記2つのことを実施しました。

1、 環境教育の実施

路上の子どもたちを対象に、環境教育を実施しました。目的は、世界の環境問題に関心を持ってもらうこと、自分の日頃の行動を振り返ること、の2つです。文字の苦手な子どもたちにも、楽しみながら学んでもらえるように、教材には手作りの紙芝居を使いました。紙芝居が終わった後は、子どもたちからさまざまな質問や環境を思う発言が出ました。

2、「自分ができること」絵画の作成

環境のために「自分ができること」を子どもたち自身が考え、そのイメージをキャンバスに描く絵画活動を行いました。その後、

子どもたちの絵をフィリピン大学（ケソン市）構内のカフェにて展示し、来場する多くの方に環境保全の大切さを伝えました。

■活動に参加した子どもの声

「木は空気を作り、紙となり、果物となり、私たちが生きる上で必要なモノを与えてくれます。僕は、木や花を傷つけません。」

(15歳 男子)

「人間は水と深い関係があるので、川や海を守る必要があります。水中の生き物は私たちが生きるのを助けてくれます。私はゴミを川や海に捨てないことを誓います。」

(11歳 女子)



自分の作品をもとに環境保全について話す子どもたち

(特活) イカオ・アコ

イカオ・アコは、フィリピンボホール島、ネグロス島でマングローブの植林、有機農業の振興、環境教育、3Rの啓発、エコツーリズム、フェアトレードなど環境関連の事業を行うNGOです。

かつて、対象地域のネグロス島の臨海部はマングローブ林が豊かな土地でした。

1950年代には13,000haありましたが、一時500haまで減少しました。材木の利用、農地開墾、養殖池への転換などにより、マングローブ林の伐採が継続的に行われてきました。感潮域に生育するマングローブ林は、水生動物の産卵場所、小魚や甲殻類の生息地として重要であり、マングローブ林

の減少は近海漁業の不振のひとつの原因となっています。

御社のシーテッククリック募金により、いただいた浄財は 34,000 円となりました。おかげさまで 680 本のマングローブの苗をバラリン村にて植林しました。苗代や運搬費などで 1 本当たり 50 円のコストがかかります。

本募金で植林したマングローブは、約 0.1



ヘクタール分にあたります。今後、地元団体のメンバーの手により、継続してメンテナンス活動を行っていくことで、造林が完了することを目指します。

皆様一人ひとりのクリックが募金につながったことに感謝し、途上国の環境保全活動を継続していきます。今後とも応援をよろしく願います。



シーテッククリック募金とは？

シーテッククリック募金WEB サイト (<http://www.ctechcorp.co.jp/bokin2018//>) より期間中に「応援します」をクリックして頂きます。1 クリック=10 円としてクリック数に応じて (株) シーテックが、(特活) 名古屋 NGO センターが運営する「中部 NGO おうえん募金」の『環境』分野にエントリーする NGO 団体 (5 団体) へ寄付します。上限金額は 20 万円です。

ご寄付 20 万円の配分について (2019 年 3 月 31 日)

・(特活) 地域国際活動研究センター	34,000 円
・ニカラグアの会	// 円
・南遊の会	// 円
・(認定特活) アイキャン	// 円
・(特活) イカオ・アコ	// 円 (順不同)

※事務手数料として寄付金額の 15% (3 万円) を頂戴しました。

特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

〒460-0004 愛知県名古屋市中区新栄町 2-3 YWCA ビル 7

FTEL&FAX 052-228-8109 E-Mail : info@nangoc.org